

仙台市野球協会 審判検定問題集

1	＜走者の帰塁処置＞ P198 定義 66 P121～P122 投球を打者が打たなかった場合、次の塁へ進塁を試みていない走者は必ず次の投球までに元の塁に触れ直す必要はない。
2	＜ファウルチップとファウルボールの定義＞ P190 定義 32 P191 定義 34 ファウルチップはファウルボールではない。
3	＜チップがミットにあたった後の捕球＞ P52 5.09a (2) P191 定義 34 【注】 打者がチップした打球が最初に捕手のミットに当り捕球できずに跳ね返った打球を地面に落ちる前に捕球すればファウルチップである。
4	＜ファウルチップ時の走者の扱い＞ P121～走者の帰塁処置 打者がチップした打球を捕手が捕球した場合、次の塁に盗塁した走者はそのままインプレイとなり継続される。
5	＜フェアボール＞ P187 定義 25 本塁・一塁間のファウルラインとスリーフットラインで囲まれたゾーンに打球が落ち転がってファウルライン巾の上部に止まった場合はフェアである。
6	＜フェアとファウル＞ P187～188 定義25 【原注】 P190 定義32 打球が最初にライト側ファウルゾーンに落ちた場合は、転がって一塁ベースより後方のフェアゾーンに入っても止まってもファウルである。
7	＜アピールプレイをどの塁で行うか＞ P65 5.09 c P69 【問】 1アウト走者二・三塁で左中間に鋭い打球。三塁走者は本塁を駆け抜け、二塁走者も三塁を回ったがセンターがこれを好捕した。この場合、三塁に送球してダブルプレーでチェンジとした場合は、三塁走者のホームインが認められない。
8	＜アピールプレイをどの塁で行うか＞ P65 5.09 c P69 【問】 1アウト走者一・三塁でスクイズ。投手への小飛球となったが走者は2人ともスタートを切っており、投手がフライを捕球した時には三塁走者は既に本塁を駆け抜けていた。投手は一塁へ送球してダブルプレーでチェンジとなり攻守交替した。この場合、得点は1点である。
9	＜アピールプレイをどの塁で行うか＞ P65 5.09 c (1) P69 【問】【答】 1アウト走者一・三塁で浅いセンターへの小飛球となったとき、走者は2人ともスタートを切った。センターがフライを捕球した時には三塁走者は既に本塁を駆け抜けていた。センターより一塁に返球され3アウトにしたが、再度三塁に送球し4アウトのアピールをおこない得点を無しとした。
10	＜塁の占有権＞ P32 5.06a (1) (2) P33 5.06 b (2) 1アウト二・三塁でスクイズを試みたが空振りとなり、三塁走者は三・本間に挟まれた。ランダウンプレイの間に三塁ベースを踏んでいた二塁走者にタッチしたが、この状況時では二塁走者は三塁の占有権を持っているため、タッチされてもセーフである。

11	〈塁の占有権と守備妨害〉 P81 6.01a (1) 1アウト二・三塁でスクイズを試みたが空振りとなり、三塁走者は三・本間に挟まれた。ランダウンプレイの間に二塁走者が三塁に到達したとき、三・本間の走者は守備妨害でアウトになった。この時、三塁ベース上の二塁走者を投球当時の二塁に戻し試合再開となる。
12	〈windアップポジションの牽制球〉 P43 5.07a (1) 【原注2】② windアップポジションをとった投手は走者をアウトにするために、塁に踏み出し送球することができる。ただし、アマチュア野球内規③に則り、右投手の3塁・左投手の1塁へはできない。
13	〈牽制の可否〉 P96 6.02a (1) 【原注】 (2) 【注】 投手の自由な足（軸足でない方）が投手板の後縁を越えたら、二塁以外への牽制球は投げられない。又直接踏み出せば二塁への偽投もできる。
14	〈三塁への牽制球〉 P96 6.02a (2) 【注】 右投手・左投手ともに、一塁・三塁へプレートを外さずに牽制球が投げられるが、一塁・三塁への偽投はできない。
15	〈走者のいない塁への牽制球〉 P96～P97 6.02a (4) 【答】 投手がセットポジションで静止している時に二塁走者が三塁に向かってスタートを切ったので、投手はプレートを外さず、走者のいない三塁へ送球することができる。
16	〈空振りは反則打球か〉 P103 6.03a (1) 【原注】 右打者が踏み出した左足がバッターボックスから完全に出ている状態で空振りした。この場合、ストライクが加算される。
17	〈正規の捕球〉 P185 定義 15 【原注】 【注】 フライを捕球する際、最初にグラブか手以外に触れた打球でも、その後地面に落ちる前に捕球した場合正規の捕球である。
18	〈リタッチのタイミング〉 P52 5.09a 【原注2】 P184～P185 定義 15 【原注】 1アウト走者三塁で右中間へのフライにライトが追いついたが打球をはじいたので、タッチアップの態勢にあった三塁走者はスタートした。その後センターがはじいた打球を地面に落ちる前に捕球した。この場合三塁走者はアピールがあってもセーフである。
19	〈サインを見る体勢〉 P42 5.07a 投手がサインを見るときは、必ずプレートに触れた状態で見なければならない。
20	〈投球姿勢〉 P44 5.07a (2) 【原注】 【注1】 セットポジションをとった投手が、走者が塁にいて完全静止しない場合バークであるが、走者が塁にいない場合に完全静止しない投球は、審判員の判断でクイックピッチとしてボールを宣告する。
21	〈振り逃げとフォースプレイ〉 P189 定義 30 2死満塁、カウント2ストライクから空振りしたが、捕手が落球したため打者は振り逃げした。この場合、捕手はボールを拾って本塁を踏んだ場合フォースアウトとなる。

22	<振り逃げ可否・盗塁> P27 5.05a (2) P32 5.06a (1) 1アウト満塁。打者は空振りの三振を喫したが捕手が落球したので一塁に向かって走り出した。各走者もいっせいにスタートを切ったので、ボールを拾った捕手は本塁を踏んだが、三塁走者は本塁を駆け抜け、他の走者も進塁した。1点入って2死二・三塁となる。
23	<振り逃げ可否・盗塁> P27 5.05a (2) P32 5.06a (1) 1アウト満塁。打者は空振りの三振を喫したが捕手が落球したので一塁に向かって走り出した。各走者もいっせいにスタートを切ったので、捕手がボールを拾って本塁を踏んだ後、三塁走者はタックされることなく本塁を駆け抜けた。 審判は一点を認めた。
24	<一塁のオーバーラン> P64 5.09b (11) P197 定義 57 打者はサードゴロ。一塁を駆け抜けた打者走者は三塁手の悪送球になるのを見て二塁に向いかけたが、カバーに入ったライトがボールを捕ったため慌てて一塁のファウルラインの外に出た。この走者はタッチされればアウトになる。
25	<プレー宣告> P80 5.12 <5.11> ボールデッドになった後、投手がボールを持って正規に投手板に位置したら、球審はただちにプレーを宣告しなければならない。
26	<ボーク時のボールデットのタイミング> P98 6.02a ペナルティ ボークの宣告があっても、打者がヒットを打ち各走者が1個以上の進塁をした場合、ボークと関係なくプレイは続けられる。
27	<打席の左右変更> P104 6.03 a (2) 【注】 投手が投球姿勢に入ったとき、右のバッターボックスから左のバッターボックスに移動したので、打者アウトを宣告した。
28	<打席の左右変更回数> P104 6.03 a (2) 【注】 ※記載以外の制限無 投手が投球姿勢にはいる前であれば、1打席のうちに打席の左右は何回変えてもよい。
29	<ファウルチップの定義> P191 定義34 【注】 P52 5.09a (2) 【原注】 P190 定義32 ファウルチップとファウルボールは捕球の条件等の違いがある。
30	<タイムの要求と宣告> P79 5.12 b (4) 【注】 1アウト走者三塁で、四球の宣告で打者走者が一塁に向かったとき、守備側の監督がタイムを要求し、マウンド方向に向かったとき、三塁手と捕手も同調しマウンドに向かったのを見た三塁走者が本塁に駆け込み、その後打者走者が一塁に到達した。 1点を認めタイムの宣告をした。
31	<ワンバウンドの投球> P30 5.05 b (2) 投球がワンバウンドになったが、これを避けようと試みた打者に当たったのでデッドボールを宣告した。
32	<フェンスに当たった打球> P 184～185 定義15 【原注】 外野のフェンスに当たって跳ね返った打球を地面に落ちる前に捕球してもアウトにならない。

33	<2アウト後ホームインの得点> P47~48 5.08a (1) 2アウト三塁で打者が三振したが、捕手が後逸したので三塁ランナーはホームベースを駆け抜けた。しかし打者はバッターボックスにいたのでボールを拾って戻ってきた捕手にタッチされアウトになった。この場合得点は記録されない。
34	<フォースプレイの定義> P189 定義 30 0アウト走者一塁で打球がライトゴロとなった。野手が捕球し二塁に送球・二塁手から一塁に送球しダブルプレイとなった、このプレイはフォースプレイである。
35	<外野手の守備位置> P22 5.02 (C) レフトは投手の投球前にあらかじめ二塁と三塁を結ぶ線より前に守っていてもよい。
36	<野手の守備位置> P110 6.04c P22 5.02 競技者必携 P41 (23) 捕手以外の野手はフェア地域内であっても投球前にマウンドより前の極端な前進守備をすることはできない。
37	<選手交代の申告漏れと記録> P73 5.10j 打者AのところでBを代打に送ったが審判に申告するのを忘れており、Bはヒットを打って出塁した。この場合、相手チームからアピールがあっても投手が投球したところで交代が成立しているのでBのヒットに記録される。
38	<申告の無い選手交代> P73 5.10j 打者AのところでBを代打に送ったが審判に申告するのを忘れており、Bはヒットを打って出塁した。この場合、相手チームからアピールがあってもBのヒットは無効にならず選手交代も有効である。
39	<空手でのベースタッチ> P33 5.06b (2) 1アウト走者一塁。二遊間のゴロを二塁手がダイビングして捕り、ボールを持っていない右手で二塁ベースにタッチした後一塁走者が二塁に達した。この走者はアウトである。
40	<走者の追い越し> P63 5.09b (9) 【注2】 0アウト走者一・二塁。左中間にフライが上り、二塁走者は二・三塁間で止まっていたところ、一塁走者が二塁走者の手前まで来たところで、フライは捕球されなかったため、二塁走者は慌ててスタートしたが一塁走者に追い越された。その場合追い越した一塁走者がアウトになる。
41	<逆走時の追い越し> P63 5.09b (9) 【注2】 0アウト走者一・二塁。左中間にフライが上り、二塁走者は二・三塁間で止まっていたところ、一塁走者が二塁走者の手前まで来たところで、フライが捕球され2人の走者は慌てて逆走し、二塁走者が一塁走者を追い越した。この場合、追い越された一塁走者がアウトになる。
42	<四球時の暴投> P38 5.06b (H) P47 5.07e カウント3ボールからの投球が暴投となりファウルゾーンをボール転がった。この場合安全進塁権はワンベースでインプレイなので二塁まで自己責任で進塁することができる。
43	<牽制悪送球とボールデッド> P38 5.06b (H) 投手の一塁への牽制球が暴投となりボールデッドゾーンに入ったとき、投手板を外していた場合は2個、外していなかった場合は1個の安全進塁権が走者に与えられる。

44	<野手悪送球時の安全進塁権> P37 5.06b (G) セカンドゴロを二塁手が一塁に悪送球してボールデッドゾーンに入った。この時、打者走者には2個の安全進塁が与えられる。
45	<windアップポジションからの牽制球> P43 5.07a (1) 【原注2】 ② 投手は、windアップポジションからプレートを外さずに二塁に自由な足（軸足でない方の足）を直接踏み出して牽制球を投げてよい。
46	<windアップポジションからのプレートの外し方> P43 5.07a (1) 【原注2】 ③ 投手は、windアップポジションからプレートを外す時は、軸足から外してから手を外さなければならない。
47	<バントの定義> P184 定義 13 バントは、バットをスイングしないで、内野にゴロをゆるく転がるように意識的にミートした打球を言う。
48	<スリーバント失敗の定義> P27 5.05a (2) P53 5.09a (4) 0アウト走者二塁。2ストライクからバントを試みたが空振り三振となり、捕手がこのボールを落球したが、この場合 3ストライクなので振り逃げができる。
49	<インフィールドフライが宣告される時> P192 定義 40 0アウト走者 一・二塁で打球は平凡なショートへのフライとなり、インフィールドフライが宣された。
50	<インフィールドフライ> P192 定義 40 P61 5.09b (7) 【例外】 インフィールドフライが宣告された打球がベース上にいる走者に当たった場合、打者だけがアウトになり、走者はアウトにならない。
51	<故意落球の定義> P55 5.09a (12) 【規則説明】 0アウト走者一・二塁で送りバントが投手への小飛球となり、走者はスタートを切れなかった。投手はわざと捕球せずにグラブに当てて落とし、三塁へ送球、次いで二塁へ転送しダブルプレーとなったが、この行為を故意落球と判断し、打者アウトで1アウト走者一・二塁とした。
52	<トンネルした打球が走者に当たった> P41 5.06c (6) (B) 0アウト走者一・三塁。セカンドゴロを前進守備の二塁手が捕ろうとしたところトンネルした。この打球が一塁走者に当たった場合、一塁走者はアウトにならない。
53	<打撃妨害> P31 5.05b (3) 1アウト三塁。打者のバットにミットが触れたが打球は外野まで飛び犠牲フライとなった。この場合、監督の選択があり、打撃妨害を無効として「1点入り2アウト走者なし」か打撃妨害で「走者三塁・打者走者一塁」何れかをえらぶことができる。
54	<打撃妨害> P31 5.05b (3) 1アウト二・三塁。打者のバットにミットが触れたが打球はレフト前ヒットになり、三塁走者はホームインしたが二塁走者は打撃妨害に気付いて進塁しなかった。この場合、1点入って1アウト・二塁とするか、打撃妨害をとって1死満塁とするかを監督が選択することができる。

55	<四球の定義> P29 5.05 b (1) 【原注】 1アウト走者二塁でカウント3ボール。次の投球はきわどいコースでボールの判定だったが、捕手がパスボールをしたため二塁走者は三塁をまわって一気にホームインし、打者も二塁に達した。審判員は得点を認め 1アウト走者二塁で進行した。
56	<三振の定義> P52 5.09a (2) 3ストライクをとられた時点では必ずしも打者はアウトではない。
57	<フェア・ファウルの判定> P187~188 定義 25 (f) 打者が右翼線上に打ったフライを野手がグラブに触れて落球した。ボールはファウル地域に落下したが、グラブに触れた位置はフェア地域であった。審判はノーチャッチのコールを行なった。
58	<敬遠時の捕手の位置・捕手ボーク> P99 6.02a (12) 【注】 捕手は、故意四球を企てる場合投手の手からボールが離れるまでキャッチャーボックスの外に足をだしてはならない。
59	<捕手の正規捕球> P27~28 5.05a (2) (3) P52 5.09a (2) 【原注】 0アウト走者なし。2ストライクからワンバウンドのボールを空振りした。この場合、捕手が捕球しても落球しても振り逃げができる。
60	<クイックピッチ> P44 5.07a (2) 【原注】 P97 (5) 【原注】 走者がいないときに、打席内で打者が構える前に投球した場合はボールを宣告し、嚴重に注意する。
61	<本塁の空過> P66 5.09c (2) 【規則説明】 (A) 1アウト走者二・三塁。セカンドゴロで三塁走者が本塁に突っ込みクロスプレーとなったが、走者がベースに触れ損ねて空過したので、捕手が追いかける間に二塁走者がホームインした。後位の走者が得点した以後、三塁走者は本塁を踏む権利が消滅で二塁走者の得点は成立する。
62	<押出しの得点> P29 5.05 b 【原注】 同点の9回裏2死満塁で四球。この場合、打者走者は一塁に進んで必ず塁に触れる義務を負う。
63	<押出しの得点・安全進塁権> P33 5.06 b (3) 【原注】 【注】 同点の9回裏2死満塁で四球。打者は一塁を踏み、三塁走者が本塁を踏む前に、一塁走者が二塁をまわり飛び出したところでタッチされアウトになった。以後三塁走者が本塁を踏んだが守備側より得点は無効とのアペールがあったが、審判は得点は有効とした。
64	<一塁手の正規の捕球> P184 15 P51 5.09a (1) 内野ゴロで野手からの送球がワンバウンドとなり、一塁手がかろうじて体のわきの下で球を挟んでいる状態で打者走者が一塁を駆け抜けた。審判はセーフとした。
65	<空振りの打者に投球が当たった時> P30 5.05b (2) 【規則説明】 打者がひざ元の球を空振りしたが投球が足に当たった。この場合、ストライクでボールデッドである。

66	＜ボークの投球をヒットした場合＞ P99 6.02a ペナルティ 0アウト一塁でレフト前ヒットを打ち、一・二塁となったが、投球動作中にボークが宣告されていた。この場合、ボークとは関係なく試合が続けられる。
67	＜走者の進塁義務の消滅＞ P60 5.09 b (6) 0アウト一塁で一塁ゴロ。一塁走者は走らずに一塁ベース上にいたままだったので、一塁手は一塁走者タッチを行い以後ベースを踏んだ。ダブルプレー成立である。
68	＜ベースコーチを置く義務＞ P23 5.03a ベースコーチ（ランナーコーチ）を所定の場所につかせなければならない。
69	＜飛んだバットと守備妨害＞ P54 5.09a 【原注】 バットが飛んで打球を処理しようとしている野手に当たった場合、バットの折れた部分の場合には守備妨害にならないが、バット全体の場合には守備妨害になる。
70	＜監督の抗議権＞ 競技者必携 P149 三 控え審判 アマチュア野球では、提訴試合が認められないので、審判員の規則適用の誤り等の抗議を直ちに解決する為、控え審判を置くことになっている。
71	＜アピールプレイ＞ P67 5.09 e (4) P183 定義 2 アピールとは守備側チームが、攻撃側チームの規則に反した行為を指摘して、審判に対してアウトを主張し、その承認を求める行為であり、第3アウトが成立した後でも、有利なアピールアウトがあれば、先の第3アウトと置き換えることができる。
72	＜ストライクゾーン＞ P200 定義 74 ストライクゾーンは、打者が通常の打撃姿勢で投球とバットが当たる時の打者の肩の上部とズボンの上部の中間点に引いた水平ラインを上限とし、ひざ頭の下部のラインを下限とする本塁上の空間をいう。
73	＜帰塁義務の有無＞ P121～122 ボールデッドになった場合、走者は必ず占有権を有する塁に触れ直さなければならない。その場合、プレーボールが宣告される前に通常の常識の範囲までは塁を離れることができる。
74	＜ワンバウンドの投球＞ P51 5.09a (1) P27 5.05a 【原注】 バウンドした投球を打者が打って飛球となり捕手が捕球した。審判はアウトを宣告した。
75	＜セットポジションの投手＞ P45 5.07 b 【注6】 走者のいるとき、投手板上で両手を合わせた投手が、両手を離してから軸足を投手板より後方に外した。審判員はボークを宣告した。
76	＜ベンチへの踏み込み＞ P34 5.06C原注 P80 5.12 b (6) 0アウト走者三塁で、打者は三塁ベンチ近くにフライを打った。三塁手はフライを捕球したが、走ってきた余勢でベンチ内に踏み込んだ。審判は、捕球を認め打者はアウト。その後、ボールデッドとし、塁上の走者に1個の進塁が許され、試合を再開する。

77	<ベンチへの倒れ込み> P34 5.06C原注 P80 5.12b (6) 0アウト走者三塁で、打者は三塁ベンチ近くにフライを打った。三塁手はフライを捕球したが、走ってきた余勢でベンチ内に倒れ込んだ。審判は捕球を認め打者をアウトにしてボールデッドとした。三塁走者を本塁に進塁させた。
78	<インターフェア> P82 6.01a (3) 1アウト三塁のとき、三塁走者の飛び出しが大きいと判断した捕手が、三塁への送球動作を行ったが打者の行為で送球できなかった。審判は意図的に打者が妨害したと判断し、3塁走者をアウトにし、2アウト走者なしで再開した。
79	<スクイズ時の反則打球> P104 6.03a (1) P40 5.06c (4) 1アウト走者三塁で打者はスクイズを行おうとしたとき、投手がアウトコースに外して投球した為、あわてて片足を本塁ベース上に踏み出して打ち、打球は三塁前に転がった。審判員は、反則打球で打者をアウトにし、ボールデッドにして走者は三塁に戻し、2死三塁で再開した。
80	<スクイズ時の反則打球> P103 6.03a (1) 【原注】 1死走者三塁でスクイズを行いバットにボールが当たったとき打者の足が完全にベース上空にあったが、当たったあとベース上に着地した。三塁走者はホームインしたので得点を認めた。
81	<守備妨害・打者の反則行為> P105 6.03a (3) 【原注】 1アウト一塁で、一塁走者が二盗のとき、捕手の送球を打者が妨害した。審判員はインターフェアを宣告したが、一・二塁間でランダウンプレーとなったので、審判員は直ちにボールデッドとし、2アウト走者一塁で再開した。
82	<投手の悪送球・安全進塁権> P38 5.06b (4) (H) 走者一塁、投手板上から走者をアウトにしようとした送球が、悪送球となりスタンドに入った。審判員は走者に一個の塁を与え、走者二塁で再開した。
83	<フォースアウトの定義> P189 定義30 P60 5.09b (6) 1アウト 一・三塁で打球はライトフライ。三塁走者はタッチアップから生還したが、飛び出していた一塁走者はライトからの返球で一塁アウトになった。審判員はアウトの前に三塁走者の生還の方が早かったので得点を認めた。
84	<フォースアウトの定義> P189 定義30 P60 5.09b (6) 1アウト 一・三塁で打球はサードゴロ。5-4-3のダブルプレーが成立した。審判員は三塁走者は、ダブルプレー成立前に本塁を駆け抜けたが得点を認めなかった。
85	<オブストラクションと守備妨害> P196 定義51 P91 6.01h (1) 走者二・三塁。二塁走者が投手の牽制で二・三塁間で挟撃された。走者が二塁に帰ろうとした時、球を持たない遊撃手と衝突した。審判員はオブストラクションを宣告し二塁走者を三塁へ、三塁走者は押出されて本塁へ進めた。
86	<本塁でのオブストラクション> P91 6.01h (1) 【付記】 1アウト走者三塁でスクイズが行われ、三塁走者が本塁に突入時、転がったボールを投手が守備し、送球態勢をとったとき、捕手がファウルライン上の本塁ベース前に出たところでタイムをコールし、ボールデッド後にオブストラクションを宣告した。
87	<本塁で正規の投球に触れた> P56 5.09a (14) 【注】 1アウト走者二・三塁でカウント3ボール 1ストライク後ホームスチールを企てた三塁走者に正規のストライクの投球に当たり、ボールがファウルグラウンドを転がっている間に、二塁走者まで本塁に達した。審判は、1点の得点を認め走者を戻し走者三塁 3ボール-2ストライクで再開した。

88	<打者走者> P55 5.09a (11) 0アウト満塁で投ゴロを打った。投手は本塁に送球し、三塁走者をアウトにした後、捕手は一塁に送球しダブルプレイを狙ったが、ファウルラインの内側を走っていたランナーの背中に送球が当たったので、打者の守備妨害で走塁した走者をもどし2死・走者二・三塁で再開した。
89	<危険防止> 競技者必携 アマチュア内規 P49 ⑩ 1 P86 6.01b タッグプレイのとき、野手がボールを保持している場合、走者が走路上で減速せずに故意に野手との接触を行い落球させた場合、フェアプレイの精神に則り走者にアウトが宣告される。
90	<プレイ中の事故対応> P79 5.12b (3) 1死走者一塁で、走者二塁に盗塁し、捕手が二塁に送球したがセンター前に暴投となったので走者が三塁に進みかけたとき、捕手が本塁上に出たことに気づかずボックス内で打者が素振りを行い、捕手が重傷を負い直ちにタイムを宣告し、緊急処置後協議し走者二塁で再開した。
91	<野手が走者の視線を遮る> P93 6.01h (2) 競技者必携 P34 7 走者二塁のとき、遊撃手が牽制のため走者の後を通りターンしてから走者の前で停止したとき、投手がけん制球を投げ二塁手が捕球し走者の戻りより早く走者にタッチされた。審判はオブストラクションを宣告し、走者を三塁に進めた。
92	<三塁走者がアウトになる(妨害)> P62 5.09b (8) P82 6.01a (3) 1アウト走者三塁でカウント2ボール1ストライク。投手が投球し走者が本塁に突入した。投球がワンバウンド・打者は空振りとなり、捕手がボールをベース前にはじき拾おうとしたとき、打者が捕手の守備を妨害した。審判は三塁走者にアウトを宣告し、カウント2ボール2ストライクで再開した。
93	<打球にグローブを投げる> P37 5.06b 【BCDE原注】 外野手の間を抜けようとしている打球に野手がグローブを投げつけ、打球を止めようとしたが、ボールに当たらなかった。打者は二塁に達していたが、攻撃側の監督が安全進塁権が3なので三塁までの進塁ではとの確認があったが、審判は認めず打者走者二塁のままで再開した。
94	<打者又は走者の妨害> P83 6.01a (6) P85 【原注1】 1アウト走者、一・二塁で、打者が三塁ゴロを打った。三塁手はこれを捕って三塁ベースを踏み、一塁に送球しようとしたが、二塁走者に足を蹴られて送球ができなかった。審判は打者走者にアウトを宣告して3アウトとした。
95	<守備側の権利優先> P86 6.01b (6) 打者の打球が三塁コーチャーボックス付近にファールフライとなった。これを捕球しようとしたが、コーチャーボックス内にいたコーチャーが避けようとせず、接触して捕球することができなかった。審判は守備妨害として打者にアウトを宣告した。
96	<守備の優先権> P58 5.09b (3) 【注1】 【注2】 塁線上であっても走者は、打球を捕球しようとしている野手に接触しないように迂回して走塁しなければならない。
97	<ハーフスイング> P125 8.02 (C) ハーフスイングに付いて、どの状況でスイングと判定するかを規定する記載は、野球規則に無いので、個々の審判員の裁量により裁定されたものが最終裁定となる。
98	<裁定の訂正時期> P124 8.02 (b) 【注1】 【注2】 審判員の裁定が規則の適用が誤って下された疑いがある場合、監督だけが規則適用の修正を申し出ることが許されるが、アピールの時期は投手・野手がフェア地域を去るまでにしなければならない。又、審判員が裁定の誤りに気付いても、同じ時期までであれば裁定を訂正ができる。

99

＜投手の交代＞ P71 5.10 b 【原注】 P74 5.10 (1) 【注1】 【注2】 必携P28
監督が一イニングに同一投手もとに、2度目に行けば自動的にその投手は交代となるが、同一イニングでは、投手がある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置の移ることは出来ないが、全日本軟式野球連盟「競技者必携」に則り、適用しない。

100

＜グローブの使用位置制限＞ P9～P12 3.04 3.05 3.06 3.07 競技者必携 P56
捕手ミット・ファーストミット・野手グラブの順にサイズ規程が軽減される為、野手グラブでファースト及び捕手の守備をすることが出来る。